

1. 世界で活躍できるグローバル人材育成につながる事業、きらめき創造館 Topic のソフト事業「きらめき大学」(トンダイ)のさらなる発展を

- (1) 平成30年度より現在までの事業経過と効果(成果)について
- (2) 「0歳から100歳までが学ぶリカレント教育事業」今後の生涯学習の見解を聞く。
- (3) 2020年度の新教育制度に基づいた学校現場や地域に出かける(派遣)展開を

**【答弁】**

ご質問の1. 世界で活躍できるグローバル人材育成につながる事業、きらめき創造館 Topic のソフト事業「きらめき大学」(トンダイ)のさらなる発展をの(1)から(3)につきまして、順次、お答えさせていただきます。

きらめき創造館は、平成29年9月に子どもからシニア世代までを対象とした生涯学習の拠点施設としてオープンいたしました。特に青少年の育成に視点をおいた学習機会の提供に取り組んでいるところでございます。

そのひとつの取り組みといたしまして、平成30年7月から「富田林きらめき大学」通称トンダイという名称の、いわゆる市民大学をおこなっており、若い世代がこれから世界で活躍していくために必要となる知識や情報、また体験を通じて学ぶ事のできる講座を連続的に提供しています。

また、様々な世代が新しい世界を発見し、それを新たな人生の挑戦につながるきっかけとなるような講座を提供したいと考えているところでございます。

ご質問の、(1)でございますが、「富田林きらめき大学」では、講座のテーマを、「グローバル講座」「キャリアアップ講座」「市民の元気アップ講座」に分類しています。

「グローバル講座」といたしましては、外国人講師と日常会話を楽しみながら、外国語に触れるとともに世界を知るきっかけになることを目的とした「イングリッシュビレッジ」「英語でクッキング」「英語でおもてなし」「中国語でクッキング」「英語でハロウィーン」などの講座をおこないました。

また、インターネットを使って子どもに興味を持たせる新しい教育スタイルとして話題になっている探求型イベントも実施したところでございます。

また、「キャリアアップ講座」では、企業の社員を講師に招き、企業の新しい取り組みや理念を紹介する講座、ロボットを動かすプログラミングを体験する講座、

電子地図に情報を表現するマッピング講座などをおこないました。

「市民の元気アップ講座」では、視力と脳を鍛えるビジョントレーニング、子どもの想像力を育てる将棋教室などをおこないました。

それぞれの講座の効果、成果でございますが、アンケート結果ではそれぞれの講座で高い評価をいただいていますことや、英語の受講生が講座修了後に英会話サークルを始めるなど、自主学習のきっかけとなる役割を果たしていることや、各講座とも毎回定員を超える応募があり、特にプログラミング講座は定員の5倍を超える応募があり、新しい世界を知ることへの市民の高い関心があり、そのニーズに答えていることを実感しているところでございます。

次に(2)でございますが、人生100年時代を見据え、社会人やシニア層が、再び就労するためのノウハウの習得や、心の豊かさや生きがいの獲得など様々な意味における学び直し、すなわち「リカレント教育」は、今後、ますます生涯学習の分野でのニーズが高まってくるものと考えているところでございます。

たとえばオリンピックや万博などで外国人観光客が増加することでの観光の分野、また、高齢社会における介護事業の分野、IoT やインターネット関係での分野など、社会の変化に伴う新たな就労機会が増える中、その就労技術の習得に向けた学習機会の提供は、生涯学習の重要なテーマになると考えていることから、富田林きらめき大学におきましても、リカレント教育を意識した講座に取り組んでいるところでございますが、これまでの「趣味を楽しむ」という生涯学習のイメージは、今後大きく変わるものと考えているところでございます。

次に、(3)でございますが、来年度より小学校でのIoT やAI 時代に対応する教育として、プログラミング授業が始まりますが、「富田林きらめき大学」では、本年7月に実施をしましたロボットプログラミング講座において、定員20名に対し、100名を超える応募があるなど、子どもや保護者の関心が高いことを実感いたしました。

また、8月に開催いたしましたきらめき創造館の運営についてご意見をいただく「きらめき創造館運営協議会」において、特にプログラミングや英語教育は保護者の関心や必要性も高いので、「富田林きらめき大学」の講座を各地域で実施してはどうかというようなご意見を多くいただいたところでもございます。

議員ご提案の、学校現場や地域に出かける「富田林きらめき大学」の実施につきましては、本年度、試験的に、他の地域での開催を計画しておりますが、今後の計画につきましては、学校や地域との調整などを図りながら検討してまいります。

以上で、お答えとさせていただきます。